

“シリーズ 21 世紀の未来社会 (全 13 章)” の  
◆要諦再読◆ —スタートにあたって—

民衆の生活世界を築く

—腐り切ったわが国の「政治」を超えて—

21 世紀における

資本主義超克の

人間復活のレボリューション。

根なし草同然の賃金労働者と

生産手段との「再結合」による

抗市場免疫の「菜園家族」を基軸に展開する

民衆の生活世界の構築。

菜園家族レボリューション。

広大無窮の自然界を母胎に

生成・進化を遂げてきた人間社会。

自然界と人間社会両者を貫く生成・進化の

元来あるべき「適応・調整」(「自己組織化」)<sup>※1</sup>の普遍的原理の

決定的乖離の行き着く先。

それは、人間社会が大自然界のただ中にありながら

あたかも悪性の癌細胞の如く

増殖と転移を限りなく繰り返し

人間どもの飽くなき欲望の赴くままに

生命の惑星、地球を丸ごと

容赦なく蝕み尽くしていく

宿命的とも言うべき結末なのだ。

自然界と人間社会の生成・進化を律する

原理レベルでの乖離を抑制し

両者合一の普遍的原理に

限りなく収斂すること。

この壮大な人類的課題に立ち向かう

「菜園家族」を基調とする C F P 複合社会の

長きにわたる展開過程。

まさにこれこそが  
民衆の主体形成の確かな基盤創出にとって  
不可欠のプロセスであり  
社会構造のさまざまなレベルにおける  
多重重層的アソシエーション※<sup>2</sup> 創出の  
生きたプロセスでもあるのだ。

このプロセスのわが国における具現化である  
民衆主体の自律的“菜園家族レボリューション”こそが  
貧困と格差と戦争のない  
大地に根ざした  
素朴で精神性豊かな  
民衆の生活世界を築く。

時代の大転換期にあって  
未来に対する傲慢と不安が錯綜する  
混迷の今日においては尚のこと  
宿命を背負った人間社会への  
この新たな問いかけが  
抽象レベルでの概念操作を延々と繰り返し  
訓詁学的手法の隘路に陥りがちな現状を  
自ずから克服し  
現実世界に広がる豊かな具体的事実からの  
帰納を重視する  
実証的研究の復権を促す。

それはやがて  
18 世紀イギリス産業革命の渦中から現れた  
19 世紀未来社会論を止揚し  
新たな時代の要請に応えうる  
高次の 21 世紀未来社会論の構築を  
可能にするのではないか。

以上、昨年 9 月末から 3 ヶ月にわたり  
当ホームページに連載した  
シリーズ“**21 世紀の未来社会**  
—世界的複合危機、混迷の時代を生きる—”（全 13 章）を  
核心のごく肝に絞ってあらためて要約解説した。

これを手始めに、今後も折々に  
激動する今日の時代状況や  
これまでにお寄せいただいた  
ご感想、ご意見、疑問点にも触れながら  
読者のみなさんとともに  
このシリーズ全13章を随時  
再吟味していきたいと思う。

わが国の今日の腐り切った「政治」の現実  
ウクライナ戦争が如実に示す  
危機迫る世界戦争の本質も  
こうした新たな世界認識の構築と鍛錬によって  
より深く捉えることが可能になるのではないか。

そして、何よりも今日の混沌の中から  
めざすべき21世紀の未来像が  
より鮮明に浮かび上がってくるであろう。

こうした期待を込めて  
要諦再読をスタートさせたいと思う。

◆シリーズ“21世紀の未来社会 ―世界的複合危機、混迷の時代を生きる―”（全13章）  
の《目次一覧》は、当方ホームページの下記リンクのページをご覧ください。

<https://www.satoken-nomad.com/archives/1823>

※1 シリーズ“21世紀の未来社会”の第三章「今こそ近代のパラダイムを転換する」  
<https://www.satoken-nomad.com/archives/1911>、および第十二章「高次自然社会への道」  
<https://www.satoken-nomad.com/archives/1988>の2節「人類史を貫く『否定の否定』の弁証法」を参照のこと。

なかんずく「自己組織化」については、スチュアート・カウフマン 著、米沢登美子 監訳『自己組織化と進化の論理 ―宇宙を貫く複雑系の法則―』（日本経済新聞社、1999年）、原典 Kauffman, Stuart "AT HOME IN THE UNIVERSE : The Search for Laws of Self-Organization and Complexity", Oxford University Press, Inc., 1995 を参照。

※2 同シリーズ“21世紀の未来社会”の第六章「あらためて考える 21世紀の未来社会」  
<https://www.satoken-nomad.com/archives/1946> の2節「草の根民主主義熟成の土壌、地域協同組織体『なりわいとも』の生成・展開」、および第七章「『匠商家族』と地方中核都市の形成」<https://www.satoken-nomad.com/archives/1957> を参照のこと。

2023年2月6日  
里山研究庵Nomad  
小貫雅男・伊藤恵子



☆これからも、読者のみなさんからのご感想などをお待ちしています。

〒 522-0321 滋賀県犬上郡多賀町大君ヶ畑（おじがはた）452 番地

里山研究庵N o m a d

TEL&FAX : 0749-47-1920

E-mail : onuki@satoken-nomad.com

里山研究庵N o m a d ホームページ

<https://www.satoken-nomad.com/>

菜園家族じねんネットワーク日本列島 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/saienkazoku.jinen.network/>